

農山漁村
×環境 
=SDGs

気候変動に対応する
農業技術国際シンポジウム
地球規模で考える
気候変動と農山漁村

*Agriculture is the solution!
for climate change*

2019年 **5月13日** (月)

14日(火)・15日(水)

会場：滋賀県立芸術劇場
びわ湖ホール

参加費
無料

日英
同時通訳

写真協力：(公社)びわ湖ビジターズビューロー、太田和枝(新潟県上越市/農業女子PJメンバー)、
ナイタイ高原牧場(北海道土幌町)、兵庫県立コウノトリの郷公園

主催
農林水産省

後援(アルファベット順)



Food and Agriculture
Organization of the
United Nations

国連食糧農業機関



フォーバー・ミルイニシアティブ



滋賀県



THE WORLD BANK
世界銀行

農山漁村は、気候変動のソリューション

近年、干ばつや集中豪雨などの異常気象による災害が世界各地で発生し、食料生産にも甚大な被害を引き起こしていることが毎年のように報告されています。農業は同時に、温室効果ガスの排出源でもあります。

気候変動の下での持続的な食料生産は人類共通の課題です。農林水産業を続けていくためには、気候変動に適応し、生産量を増大し、かつ温室効果ガスを減らさなければなりません。

どうやって？

異常気象を肌で感じる農林漁業者だからこそできる取組があるのです。そのために、毎日食事をする私たちも一緒に考え、行動する必要があります。

5月(月)
13日

地球規模で考える気候変動と農山漁村

会場：滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 中ホール 10:00-18:00 (9:30開場)

定員：600名【先着順】(参加費無料)

言語：日本語、英語(同時通訳)

プログラム(予定)

基調講演：「2℃目標を達成するための農業の役割」

マルタ・アンドレア・アルファロ・バレンズエラ 氏

IPCC*温室効果ガスに関するインベントリータスクフォース農業担当レビューア

課題設定：国連食糧農業機関、気候変動枠組条約、フィジー、スーダン

我が国の農林水産業と気候変動：農林水産省

優良事例の共有：ニュージーランド、滋賀県、持続可能な世界賢人会議、森林・水産分野ほか

全体総括：今後の取組方向「あなたも参加することで、農山漁村は気候変動のソリューション！」

※IPCC：世界気象機関と国連環境計画の下で1988年に設立された政府間組織。気候変動に関する科学論文をとりまとめた報告書を作成することにより、世界の気候変動対策の進展に貢献。今年の5月8～12日、京都市で総会が開催される。

5月(火)
14日

フィールドツアー(詳細はHPをご覧ください) 8:30-17:30(予定)

場所：滋賀県内 定員：100名程度(先着順)

魚のゆりかご水田、再エネ等を用いた資源循環型の地域づくりの現場等

【びわ湖ホールアクセス】

所在地：滋賀県大津市打出浜15-1
(JR大津駅北口から)中央通りを北へ850m、琵琶湖沿いで右折、なぎさ通りを750m
(京阪石場駅から)通りを北に3分

5月(水)
15日

シンポジウム分科会(詳細はHPをご覧ください) 9:30-16:00(予定)

テーマ：土壌への炭素貯留、健全な土壌、土壌肥沃度改善

会場：大津市内 定員：100名程度(先着順)

参加登録方法

農林水産省HPよりお申し込みください。
(QRコード、又は「農水省環境政策」で検索、「新着情報」内のリンクからどうぞ。)
インターネット環境がない場合はお電話(03-6744-2016)でもお申し込みできます。
<http://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/kikouhendou/symposium/main.html>

【お問い合わせ】

農林水産省大臣官房政策課環境政策室内
シンポジウム事務局
office-agisol@maff.go.jp

